

船舶事故等調査報告書

平成23年4月28日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2011神第1号	
事故等種類	運航不能（機関損傷）	
発生日時	平成22年8月5日 20時30分ごろ	
発生場所	石川県輪島市沖 輪島市猿山岬灯台から真方位270°5海里（M）付近 （概位 北緯37°19.5′ 東経136°37.3′）	
事故等調査の経過	平成23年1月4日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（神戸事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 漁船 ^{みずほ}瑞穂丸、6.99トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 IK2-3993（漁船登録番号）、個人所有</p> <p>乗組員等に関する情報 船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 主機ピストン、シリンダライナ、主軸受メタル、クランクピン軸受メタル、ピストンピンなど焼損</p>	
事故等の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、漁場に向けて能登半島の西側沿岸を北進中、平成22年8月5日20時30分ごろ、猿山岬灯台から真方位270°5M付近において、主機の潤滑油（以下「L O」という。）圧力低下警報装置が作動するとともに異音が生じるようになった。</p> <p>船長は、機関室に急行し、主機のL Oこし器からL Oが漏れているのを認め、直ちに主機を停止した。</p> <p>本船は、運航の継続を断念し、船団の操業が終了するのを待ち、翌6日03時30分ごろ、僚船にえい航され、07時30分ごろ、出港した石川県志賀町富来漁港に帰港した。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 なし、視界 良好</p> <p>海象：海上 平穏</p>	
その他の事項	<p>インシデント直後、船長は、クランク室のL Oが著しく減少し、検油棒に付着しないまで低下していることを確認した。</p> <p>帰港後、修理担当者の点検及び調査で次のことが判明した。</p> <p>①L Oこし器は、蓋に付けられるOリングの正規本数は1本であるが、本インシデント時には2本取り付けられていた。</p> <p>②船長は、前回のL Oこし器内エレメント新替時、それまで取り付けられていたOリングを取り外さずに新しいOリングを重ねて取り付けした。</p> <p>③2本のOリングが、蓋の内側から飛び出す形で損傷していた。</p> <p>④Oリングの損傷部分からL Oが漏れいしていた。</p>	
分析	乗組員等の関与	あり
	船体・機関等の関与	あり
	気象・海象の関与	なし
	判明した事項の解析	本船は、能登半島の西側沿岸を漁場に向けて北進中、主機L Oこし器からL Oが漏れいしたことか

	<p>ら、LO圧力が低下して機関各部の潤滑が不良となり、主機のピストンやシリンダライナなどが焼損したものと考えられる。</p> <p>LOこし器は、エレメントを新替した際、船長がそれまで取り付けられていたOリングを残したまま新しいOリングを重ねて取り付けただことから、損傷したものと考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、夜間、本船が、能登半島の西側沿岸を漁場に向けて北進中、主機LOこし器からLOが漏えいしたため、LO圧力が低下して機関各部の潤滑が不良となり、主機のピストンやシリンダライナなどが焼損したことにより発生したものと考えられる。</p>